

会報(第 3 号)

NPO法人 環境創世ネットワーク21

これからは、こんな方法で !!

本年度は、年度計画に沿い「皆を明るくする活動を支援して行く」ことをスローガンとして参ります。その活動として学校主催の掃除に学ぶ会の時と各地区掃除に学ぶ会の場合の支援をどのようにして行くか。

その方法について以下に記して見ます。

これに則って本年度の掃除に学ぶ会や学校主催清掃学習会の助成をしていきたいと思えます。

1.学校主催の場合(清掃学習会の場合)

◎掃除に学ぶ会からのリーダー・サブリーダーに対して、1人千円の補助をして行く。

(1)この際、葉をだしてもらおう(葉は学校側で作成してもらって)

①葉にはリーダー・サブリーダーの氏名が記載されている。(班編成の中に)

②葉には、表紙に協賛 NPO 法人環境創世ネットワーク 21 と記載されている。

③葉には、学校側のトイレ掃除への思い入れが掲載されている。

(2)この際、児童生徒の感想文を出してもらおう(1~2 行の物だけでなく 200~800 字ぐらいの物も是非欲しい)

2.掃除に学ぶ会の場合(主に月例会の場合)

◎参加した児童生徒に対して、かかった食費と保険料の全額を補助して行く。

(1)その為に葉を出してもらおう —— 当日の朝受付で会員皆に渡した物

(2)その為に会計報告を出してもらおう —— 反省会の席で出される物

(3)出してもらおう葉の表紙には「協賛 NPO 環境創世ネットワーク 21」と記載されているように。

(4)児童生徒数は 100 名迄とする。100 名を超える場合は学校主催としてもらう。

3.上記 1、2 とも、申請書(別紙)を鏡として付けて提出してもらう。

4.上記 1、2、3 の提出を受けて、確認審査して早急に金銭の助成をして行く。

協賛及び助成金申請書

NPO 法人
環境創世ネットワーク 21
理事長 長谷川昭次 様

申請者
氏名 _____ 印
TEL _____
送金先 _____

下記行事を実施しましたので、別添資料を添えて、貴法人のご協賛及び助成金の申請をいたします。 別添資料（記号数字に○印をして確認してください）

I. 学校主催の場合

- ◎葉を添える
 1. リーダー、サブリーダー名
 2. 協賛 NPO 法人環境創世ネットワーク 21 が表紙に。
 3. 学校側の清掃学習会に対する思い入れが。

◎感想文を添える(代表的な物数編を)

II. 掃除に学ぶ会の場合

- ◎葉を添える
 1. 協賛 NPO 法人環境創世ネットワーク 21 が表紙に。
 2. 会計報告(反省会の時の物)。

尚、助成金申請書は次の通りです。(や [] () に数字を入れてください)

■ 希望助成金額 円

■ 希望助成金額の内訳

I. 学校主催の場合

・リーダー、サブリーダーの人数() ^人 × 1000 円 = 円

II. 掃除に学ぶ会の場合

・児童生徒の参加人数() ^人 × () = [] } 円

1 人の食費

・児童生徒の参加人数() ^人 × () = [] } 円

1 人の保険料

() 掃除に学ぶ会

実行委員長 _____ 印

私の心をみがぐために

秋津小5年 祖母井 優菜(そぼい ゆうな)

「今まで5年生がトイレ掃除を長い時間かけてやっているのを見たことある人？」

せんせいはみんなに聞いた。そしてそのトイレ掃除について話してくれた。私はうんうんとうなずきながら先生の話聞いていた。でも次の先生の言葉におどろいた。

「今年の5年生は今月の24日にやることになりました。うちのクラスは1年生の前のトイレと体育館のトイレをきれいにします。」

確かにそうだ。毎年5年生がやっているのに今年の5年生だけやらないわけがない。でもびっくりした。

数日後もっとおどろくことがあった。しおりを見るとなんとわたしが2階中央トイレ(女子)のリーダーだ。環境委員だからだそうだ。この時初めてやる気と楽しさがわいてきた。だってリーダーだ。みんなが真げんに清掃しているのにリーダーだけ遊びながらやっていたのでは話にならない。それどころか人一倍頑張らないといけないと思う。

いよいよ当日。開会式をすませてさっそくトイレ掃除に取りかかった。私たちのグループには野老(ところ)さんという人がついてくれた。道具の説明や掃除の仕方を聞いていると「物にも心がある」ということを一番気にしながら話していた。

いろいろ説明や自己紹介が終って本格的にしようとして長靴をはき、「ゴム手袋をしますか?」と聞くとおもいもよらない答えが返ってきた。

「ううん、いらぬ。わけは後で。」

トイレ清掃で手袋をしない!?そんなのはありえない。後でわけを聞くと単純だった。

「便器にも心があるから素手できれいにしてあげよう。」ということだった。

千葉掃除学ぶ会の人にはよっぽど物の心を大切にしているのだなあと思った。それにしてもひどすぎる。私の心の中にはがっくりした気持ちとうんざりした気持ちがまざって変な気持ちになった。けれどいくらいやでもやらなければならない。ここは思い切って。

野老さんはだいたいの手順を教えてくれた。

①スポンジを使って水をぬきとる、②スポンジに洗剤をつけ全体に洗剤が行きわたるようにする。③サンドメッシュでできないところをこする、④水を流す(見直し)、ので思い切って手をつっこめば後は簡単だ。こすって流してふいて…。私はもくもくと掃除した。トイレ掃除とは達成感があるものだ。

トイレ掃除が終って私はスッキリサッパリした気持ちだった。こんな気持ちになれるのならトイレ掃除も悪くない。むしろ、トイレがピカピカになって良いのかもかもしれない。

閉会式が終った。少しさみしい。これは便器に対する思いなのだろうか、きっとそうだ。

私は今回トイレ掃除をして学んだことが二つある。

一つ目は「相手の気持ちを考えること」だ。人間はもちろん物にも心がある。だから物のことも考えて使ったりきれいにしたりしてあげたい。

二つ目は「積極的に」。私は閉会式で司会などが必要になった時、ぱっとひきうけられなかった。トイレ掃除をやっていなかったらきっと今のままだろう。それじゃだめだ。そう気付くことができた。だから次はそれを実行したい。だれかが何かを必要とした時に「やります!!」とすぐ言えるように。

この二つが私の課題だと思う。そしてそれができた時に私の心はピカピカになるのだろう。

平成18年2月24日(金)午後習志野市立秋津小学校5年生は全員参加でトイレ掃除をした。年一回だがこれで3回目になる。掃除とともにこんなにも子供たちの心が育つのか…と驚きである。

出舟・入舟ってなんのこと？

出舟だとか、入舟ときいても知らない人が増えてきた。

我々NPOの会員はトイレ掃除の機会に恵まれているから、この出舟・入舟という言葉によく接する。自らが発することも多い。森信三先生の“しつけの三大原則”の3番目に「**席を立ったら必ずイスを入れ、ハキモノを脱いだら必ずそろえる子に…**」とある。注 一日一語 1月31日

近頃は親がしつけを怠っているからこの履物が揃えられない子供や大人が多い。昔は結婚するなら相手の家庭訪問をして玄関を見て履物が揃っていたら、その家の娘はよい嫁になる、男はいい婿殿になると言われたものだが、今はそんな事を言うお前は化石だと言われかねない。

さて、その出舟だが玄関では履物のつま先を外に、かかとを手前に、トイレだったら入口でつま先を中に向け、かかとは手前にすることを出舟に揃えるという。その反対が入舟だ。

あたかも、靴やスリッパの形容が舟の形に似ているからこのように言われている。

玄関先で入舟に脱いだ履物を玄関に上がって腰をかかめて出舟に直す、この時は出迎えのその家の家人に尻を向けないように体を斜めにしておかむことがマナーである。

さて、履物は下駄箱(クツ箱)に収納される。あっち向きこっち向きはみっともない。やはり揃えるべきだ。常識的に人にお尻を向けないようにするのがいいことだが、森信三先生の前掲書に「クツのかかたが揃うように。」とある。ここで誤解が生じる。かかたが手前でいいんだと。

小松 宗基(投稿)

これは違います。森信三先生に直接指導を受けて経営されている福岡の仁愛保育園(園長石橋富知子)では見事につま先を手前かかとは向こうに揃っている。仁愛保育園は私立だが全国の教育関係者の参観が絶えない。月間雑誌致知には2回紹介されている。

20年前の事だが、相模原の研修センターでN社の女子社員、B社の営業マン、S社の管理者研修が同時に開催された。私はS社の管理者研修を担当していた。

センターのトイレは男女が壁を隔てて並んでいる。前を通ると履物の揃い具合は見える。女子トイレは何時見ても整然としている。一方男子トイレは乱れている。私はS社の研修生に問うた。どう思うかと。答えは聞くまでも無い。B社の連中はなっていないと言う。私は、些事雑事を疎かにすべからずだよと更なる自覚を促した。

S社の広島支店次長は帰任後直ちにB社との取引を停止したと報告してきた。

ちなみにN社とは今はデジカメの出遅れで苦しんでいる日本光学であり、B社とは後に倒産した文祥堂でありS社とは20年後の今日資本金を10倍にしたサンウェーブ工業である。

多寡が履物ではないかと悔る勿れである。

出舟入舟に日頃留意して欲しいと願わずにいられない。



編集後記

本号で「これからは、こんな方法で」助成方法についてお知らせいたしました。これに則って今日迄既に行われている「清掃学習会」や「掃除に学ぶ会」に対して溯って支援して行きたいと思っております。その実際につきましては次号でお知らせいたします。

発行人 長谷川昭次

編集人 石井 和美

年2回(7月1日・1月1日発行)

発行所 NPO 法人環境創世ネットワーク21

日本企画株式会社内

船橋市本町6-21-16 TEL047-426-0026

